

令和6年度 旧宇和島管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和6年8月6日(火) 10:00~12:00

2 場 所 宇和島市立岩松公民館(大集会室)

3 講演内容

- ・ 演 題 「不登校児童生徒の対応について」
- ・ 講 師 カウンセリングルームはびねす会長 幸田 裕司 氏

(1) 不登校になる要因

ア ゲーム依存による不登校

ゲーム障害は、ゲームに熱中し、利用時間などを自分でコントロールできなくなり、日常生活に支障が出る病気である。WHO(世界保健機関)では新たな病気として、2019年から国際疾病分類に加えた。ゲームのことしか関心がないので、子供たちはゲーム以外のことを全く覚えていない。ゲーム以外のことにも関心をもたせたり、ゲーム以外の余暇の時間の使い方を教えてあげたりすることも必要である。また、人とも話さないで、ストレス発散ができない。保護者には「リビングで過ごす時間を増やしてください。」というアドバイスが有効である。

イ 発達性協調運動障害による不登校

発達障害の子供に多い(人並み以上に不器用な子、よくつまずく子)。不登校の子供にはマイナスなことから聞かない。「学校に行きたくない」という子供の発言に対して「なんで?」と聞くのではなく、「学校で好きなことはないの。」と前向きな声掛けをするとよい。

ウ 被災体験による不登校

被災のときの恐怖心がフラッシュバックすることもある。

エ 神経発達障害による不登校

発達障害の中に神経発達障害や運動障害症が加わったこともあり、合理的配慮がますます必要である。

支援のポイント

- (ア) スモールステップ
- (イ) 見える化
- (ウ) 構造化
- (エ) エラーレス(マイナスの言葉掛けをしない)

オ HSC(Highly Sensitive Child)【人一倍敏感な子】

HSCは生まれつきの気質である一方、不安症は、主に環境が引き起こすものである。いずれにおいても、大事なことは、「不安を抱くことは悪いことではない」という前提の理解が必要。医学的な診断名として認証されているわけではない。

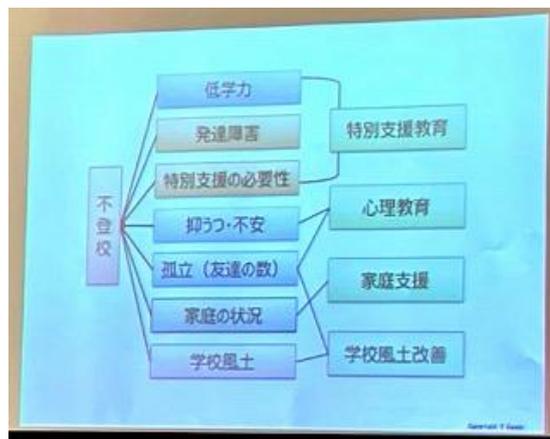
カ OD(Overdoes)【医薬品等の過剰摂取】

キ ヤングケアラーを含む家庭環境を原因とする不登校

ヤングケアラーとして、家庭を支えなければならない場合、児童相談所や警察の協力も必要になる時がある。また、身近に不登校経験者「モデル」がいると不登校に陥る可能性が高くなる。

(2) 不登校への対応方針

- ア 登校を最終的な目的としない。
- イ 不登校のリスクを踏まえた支援
- ウ 学校の環境の見直し
- エ 地域内の連携
(民間、NPO団体、関係諸機関)
- オ 学校外教育機関の受入体制



<写真1 不登校になる要因>

(3) 教員のメンタルヘルス

不登校児童生徒を担当する先生が、ストレスを抱え精神疾患になりやすい。ストレスと上手に付き合う力が大切である。

ア メンタルヘルスをよくするためのポイント1

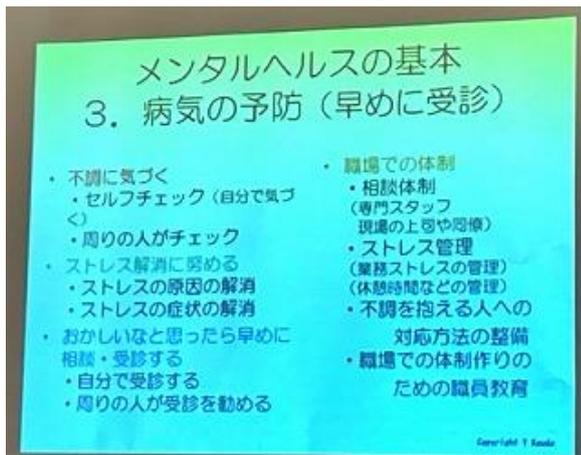
- (ア) 安心・安全
- (イ) 仲間・友達
- (ウ) 楽しい
- (エ) 嬉しい・おいしい

イ メンタルヘルスをよくするためのポイント2

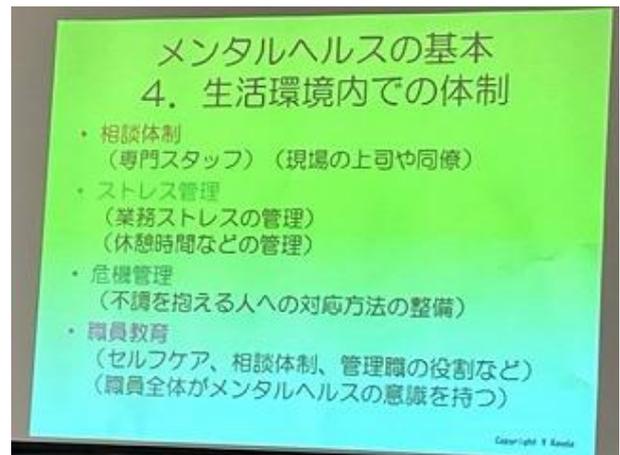
- (ア) 気付き
- (イ) 傾聴
- (ウ) つなぎ
- (エ) 見守り

ウ STRESSを上手に回避するには

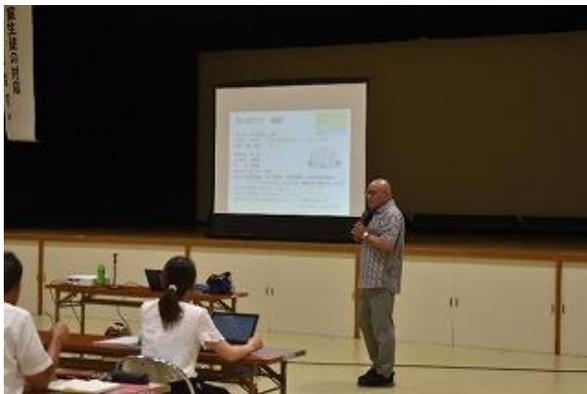
- (ア) S p o r t s
- (イ) T r a v e l
- (ウ) R e c r e a t i o n
- (エ) E a t i n g
- (オ) S l e e p
- (カ) S m i l e



<写真2 メンタルヘルスの基本1>



<写真3 メンタルヘルスの基本2>



<写真4 講師の先生の自己紹介>



<写真5 閉会行事>